

7 / 6 校長室より No.48

本日、町民総合センターで町戦没者追悼式が挙行されました。先の大戦が終わって今年で77年。戦争を知る方は年々少なくなっています。その中で、戦争経験のない我々大人には何ができるか。中学生には何を知り、何を



考えてほしいか。終戦記念日まで1ヶ月余り。ちょうど1ヶ月後の8月6日には広島に原爆が落とされています。この時期だからこそ戦争について考えたい、戦争について語り合いたいと思うのです。まして今はロシアのウクライナ侵攻が続いており、連日その悲惨なようすが報道されている状況です。大人として、親として、戦争について、平和について子どもに思いを伝えたり語り合ったりしてほしいと思います。

その時の参考というわけではありませんが、生徒代表として参列した渡部^{かなで}奏さんの「平和へのメッセージ」を掲載します。

今、私たちはとても平和で幸せな生活を送ることができています。しかし、77年前、戦争という私たちには想像もできないような恐ろしいことが起こったのです。

私は、戦争について教科書や本で知りました。戦争のことを知っていくうちに、戦争におびえる人、大切な人を失い悲しみの涙を流す人を見て心が痛みました。自分や家族の命がどれだけ危険にさらされても、「戦争は止めて」と声になら出せない。そんな世界がいつまで

続くのかわからない恐怖は、私たちには想像もできません。戦争について学ぶたび、今の私たちの生活がいかに幸せなのか思い知ります。

戦争について知っていく中で私が特に衝撃を受けたのは、特攻隊についてです。特攻隊とは特別攻撃隊の略で、爆弾と自分の命を抱えて敵艦に体当たりで攻撃をします。これにより多くの若者が命を落としました。この話を知ったとき、どれだけの恐怖と覚悟を持って飛び立ったのだろうと考えるだけで辛くなりました。きっと戦時中の人々はみんな恐怖や苦しみと闘いながら生きていたのでしょう。

戦争から77年という長い時が過ぎ、私たちの戦争への恐怖は薄れています。しかし、戦争というものを絶対に忘れてはいけません。私たちは戦争のことを教科書などでしか知ることができません。なぜなら、私たちの周りに戦争を体験した人や詳しく知っている人がほとんどいないからです。そのためか、戦争を軽く考えている人や全くわからない人が増え、あんなに大きな被害があった戦争の存在が薄れていると思います。その薄れゆくものを取り戻すために、今の私たちの力が重要だと思います。戦争の苦しみは私たちにはわかりませんが、考えることはできます。戦争のことを今の若い者が次の未来に伝え、語り継いでいくことが大切だと思います。これからの生活が、笑顔で希望あふれる平和な世の中であることを心から願います。

最後に、戦争によって尊い命を日本の国のために捧げられた方々へ心からのご冥福をお祈りし、追悼の言葉とさせていただきます。

飯豊町立飯豊中学校 3年 渡部 奏